イムブルビカ®で マントル細胞リンパ腫を 治療される方へ

監 修

社会医療法人駿甲会 コミュニティーホスピタル甲賀病院 副院長・血液内科 **鈴宮 淳司** 先生

国立がん研究センター 中央病院 血液腫瘍科長 **伊豆津 宏二** 先生

イムブルビカ®の治療をはじめるにあたって

イムブルビカ®の治療を安全に行うために、患者のみなさまに必ず守っていただきたいことがあります。

治療をはじめる前に、下記の点にご注意ください。

病気や治療に対して、不安なこと、わからないことがあれば、遠慮なく担当医、看護師、薬剤師に相談してください。

- 現在お使いいただいているお薬は、薬局で買ったお薬も含め、すべて担当医にお知らせください。
- 以前に他のお薬による治療を受けて、アレルギーや副作用が出たことがある方は、あらかじめ担当医に申し出てください。
- 他の医師または歯科医師の治療を受けるときは、このお薬による治療を受けていることを必ず伝えてください。

目 次

イムブルビカ®の治療をはじめるにあたって・・・・・・・・・・・・ 1

マントル細胞リンパ腫（MCL）ってどんな病気？・・・・・・・・・ 3

どのような治療があるの？・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

イムブルビカ®ってどのように働くの？・・・・・・・・・・・・・・ 9

どんな人がイムブルビカ®の治療を受けるの？・・・・・・・・・ 11

イムブルビカ®を飲むときに注意することは？・・・・・・・・・・ 13

- 治療スケジュール例について・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

イムブルビカ®服用中の副作用は？・・・・・・・・・・・・・・・ 19

服用中にあらわれやすい副作用・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21

特に注意が必要な副作用（1）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23

特に注意が必要な副作用（2）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25

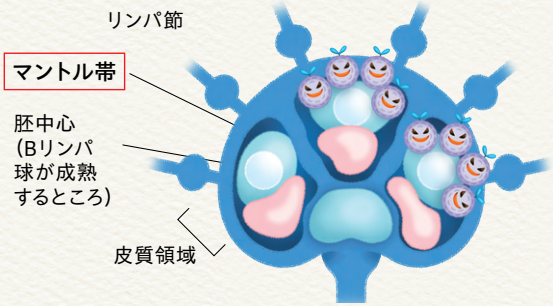
治療中の体調や気になることを記録しましょう・・・・・・・・ 29

「マントル細胞リンパ腫（MCL）ってどんな病気？」

私たちの血液の中には、細菌やウイルスから体を守る「Bリンパ球」という白血球があります。マントル細胞リンパ腫（MCL）は、リンパ節のマントル帯に由来する異常なBリンパ球が増殖する血液のがんです。
MCLは60歳代半ば～70歳の男性で多くみられるリンパ腫の一種として知られています。

マントル細胞リンパ腫（MCL）

リンパ節のマントル帯に由来する異常なBリンパ球が増え、かたまりをつくり、リンパ節や脾臓の腫れがみられます。
また多くの場合で、血液や骨髄、消化管（胃腸）などリンパ節以外の場所でも異常なBリンパ球の増殖がみられるようになります。



MCLの頻度

日本では全リンパ腫の約2～3%です[1-3]。

発症年齢・性別

発症年齢中央値は60歳代半ばで男性に多いとされています[3]。

MCLの原因

MCLは明確な原因はわかっていません。

1) Chihara D, et al.: Br J Haematol 164: 536-545, 2014.
2) Aoki R, et al.: Pathol Int 50: 696-702, 2000.
3) 日本血液学会 編: 造血器腫瘍診療ガイドライン 2023年版: 266, 金原出版, 2023.

●B細胞リンパ腫のタイプについて

B細胞リンパ腫の中には組織型により、年単位でゆっくり進むタイプ、月や週単位で進む早く治療した方がよいタイプなどがあります。これらのタイプにより治療法が異なりますので、治療方針を立てる上で重要となります。

年単位でゆっくり進行

- 慢性リンパ性白血病/小リンパ球性リンパ腫（CLL/SLL）
- リンパ形質細胞性リンパ腫
- 粘膜関連リンパ組織型節外性辺縁帯リンパ腫（MALT リンパ腫）
- 濾胞性リンパ腫
- マントル細胞リンパ腫（MCL）　など

月単位で進行

- びまん性大細胞型B細胞リンパ腫　など

週単位で進行

- バーキットリンパ腫/白血病　など

日本血液学会 編: 造血器腫瘍診療ガイドライン 2023年版: 213-214, 金原出版, 2023.より引用

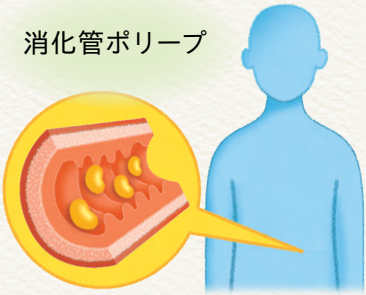
●MCLの主な症状

MCLの患者さんでは他のリンパ腫と同様にリンパ節の腫れがみられます。
また、リンパ節以外にも骨髄や消化管にも広がることが多くあります。

貧血

寝汗

消化管ポリープ



発熱

リンパ節の腫れ
(痛みがないことが多いです)

脾臓の腫れ

●病気の広がりや進み具合（MCLの病期分類）

MCLを含むリンパ腫ではAnn（アン） Arbor（アーバー）分類という病期分類を用いて、病気の進み具合を判断します。

Ann Arbor分類

Ⅰ期	1つのリンパ節領域に病変が限局している またはリンパ節以外の1つの臓器あるいは部位に病変がある
Ⅱ期	横隔膜の上下どちらかの2つ以上のリンパ節領域に病変がある または、横隔膜の上下どちらかリンパ節領域に病変が1つと リンパ節以外の1つ以上の臓器や部位に病変がある
Ⅲ期	横隔膜の上下どちらのリンパ節領域にも病変がある
Ⅳ期	リンパ節以外の臓器や部位に病変が広がっている
各病期に以下のような症状があればB、なければAと分類 （Ⅰ～Ⅳの後にアルファベットを追加） ①38℃を超える原因不明の発熱 ②寝具を交換するほどの寝汗 ③診断前の6ヵ月以内に10%を超える原因不明の体重減少	

Carbone PP, et al.: Cancer Res. 31（11）: 1860-1, 1971.より作表
【参考】日本血液学会 編： 造血器腫瘍診療ガイドライン 2023年版: 215, 金原出版, 2023.

「どのような治療があるの？」

MCLの治療には化学療法や放射線治療、同種造血幹細胞移植などがありますが、最近では分子標的薬と呼ばれる抗体医薬品といった薬剤が開発されており、治療の選択肢は広がってきました。

化学療法

がん細胞の増殖をおさえる治療法で、アルキル化薬、代謝拮抗薬、アントラサイクリン、プリンアナログと呼ばれる薬剤があります。初回治療としては、これらと抗CD20抗体（分子標的薬）を組み合わせた治療を行うことが一般的です。ただし、正常な細胞も攻撃してしまうため、副作用が強くあらわれてしまうことがあります。

分子標的薬による治療

がん細胞の内外にあるたんぱく質を狙い撃ちして、がんを効率よく攻撃します。がん細胞を集中的に攻撃するため、正常な細胞に害をおよぼすことが比較的少ない治療法とされています。
また、体の免疫システムである抗体がもつ、特定の異物（抗原）を体内から排除する働きを利用した治療法として、抗体医薬品と呼ばれる注射薬や、低分子化合物と呼ばれる飲み薬などといった新しい選択肢が増えつつあります。

自家造血幹細胞移植

患者さん自身の造血幹細胞を前もって採取しておき、抗がん剤の大量投与などの治療後、患者さんに戻す（移植する）ことで造血機能の回復を図る治療法です。MCLでは、65歳以下の比較的若年の患者さんの場合、初回治療として強度の強い化学療法を行い、効果がみられた場合に自家造血幹細胞移植を地固め療法として行うことがあります。

放射線治療

高エネルギーX線などの放射線を利用してがん細胞の増殖をおさえる治療法です。体外に設置された装置からがんに放射線を照射する外照射療法が一般的に行われます。これは照射した部位（局所）に対して有効な治療法です。

同種造血幹細胞移植

ドナー（造血幹細胞の提供者）の造血幹細胞を患者さんの体に移植し、患者さんの体の中に残っている腫瘍細胞を攻撃してくれる効果（移植片対腫瘍効果）に期待した治療法です。なお、移植された造血幹細胞に拒絶反応を示さないよう、抗がん薬などで患者さんの免疫システムを壊す必要があります。また移植片対宿主病や感染症などのリスクもあります。一般的に副作用が強くリスクが高い治療なので、高齢の方や臓器障害のある方では実施できません。

移植片対宿主病：移植後、ドナーの造血幹細胞からできたリンパ球が患者さんの体を攻撃することです。

MCLの治療は、患者さんの年齢や身体の状態、病気の進行度などを総合して決めます。

【参考資料】
日本製薬工業協会：くすりの情報Q&A（https://www.jpma.or.jp/about_medicine/guide/med_qa/）（2023年11月17日アクセス）

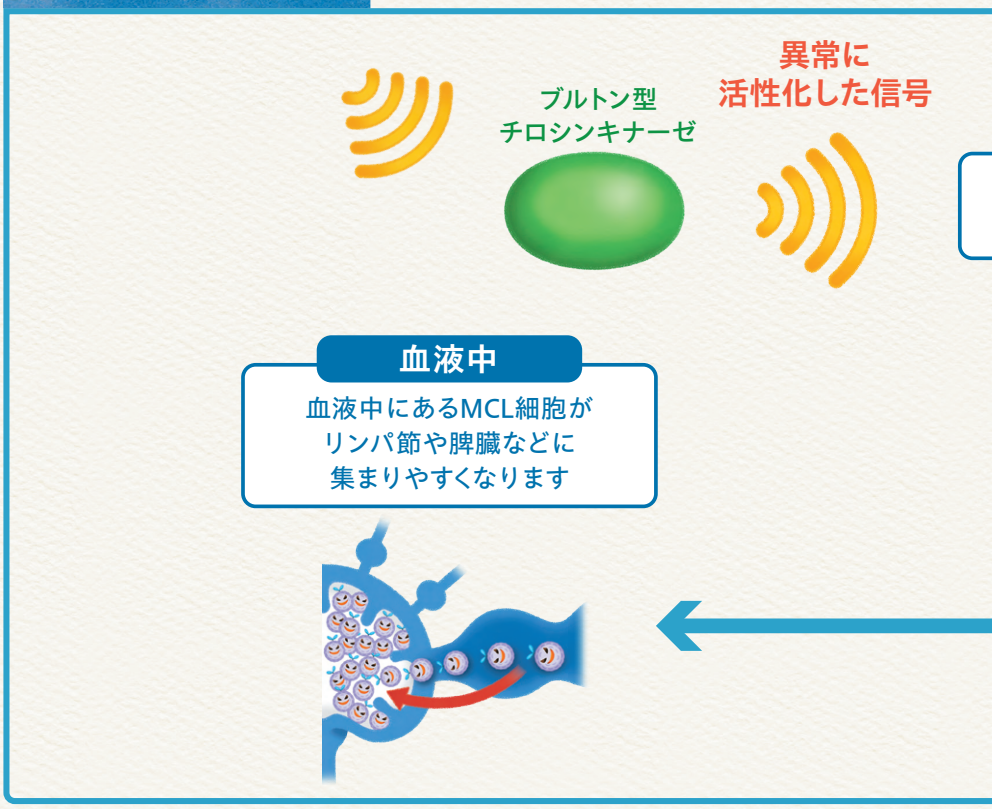
「イムブルビカ®って どのように働くの？」

●BTK阻害薬と呼ばれるタイプのお薬です

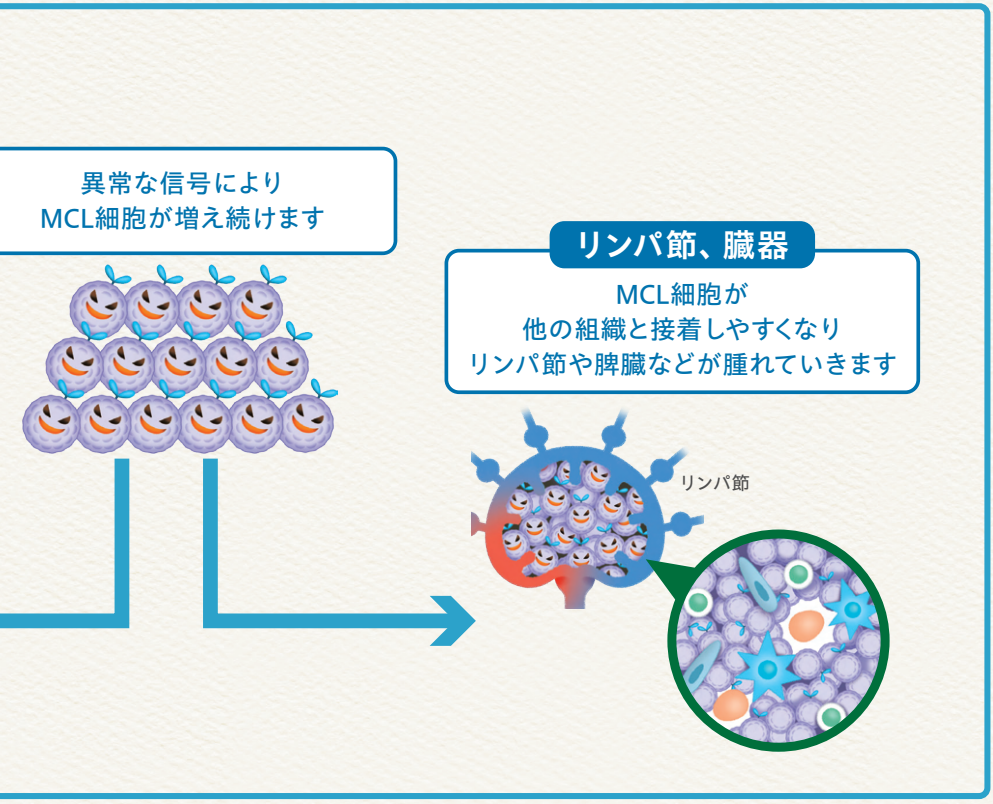
異常なBリンパ球（MCL細胞）の増殖をおさえ、臓器に集まったり、くっついて腫れを引き起こすことを妨げます。

イムブルビカ®は分子標的薬のひとつであり、マントル細胞リンパ腫（MCL）で細胞の増殖などに関わる信号を仲介するブルトン型チロシンキナーゼ（BTK）という酵素（たんぱく質）を狙い撃ちし、がんの増殖を防ぎます。

イムブルビカ®の働き



MCLでは、細胞内で「異常な信号」がたくさん出てしまい、異常なBリンパ球（MCL細胞）が体の中で増え続けます。
また、MCL細胞は、正常なBリンパ球と同じように、血液に乗ってリンパ節や肝臓、脾臓などの臓器に集まりやすくなります。そして、これらの組織にくっついて増殖し、かたまりをつくるため、これらの臓器が腫れていきます。
イムブルビカ®は、ブルトン型チロシンキナーゼ（BTK）の働きを妨げることで「異常な信号」を遮断し、MCL細胞が増殖するのを防ぎます。また、リンパ節や肝臓、脾臓などの臓器に集まったり、組織とくっつくことをおさえます。



どんな人がイムブルビカ®の治療を受けるの？

イムブルビカ®による治療は、初めてマントル細胞リンパ腫（MCL）に対する治療を受ける患者さんおよび、これまでに治療を受けたことのある患者さんが対象となります。詳しくは医師、看護師、薬剤師におたずねください。

イムブルビカ®の治療対象となる患者さん

マントル細胞リンパ腫の患者さん

- 初めてMCLの治療を受ける患者さん
- 以前、MCLの治療を受け、効果がみられたものの悪化してしまった患者さん
- 以前、MCLの治療を受けたものの、効果がみられなかった患者さん

イムブルビカ®の治療を受けることができない患者さん

- **イムブルビカ®の成分に対して、過敏症を起こしたことのある患者さん**
- **中等度以上の肝機能障害（肝臓の病気）がある患者さん**
- **以下のお薬を服用している患者さん**
  - ・ケトコナゾール（経口剤は国内未発売）
  - ・イトラコナゾール
  - ・クラリスロマイシン
  - ・エンシトレルビル フマル酸
- **妊婦または妊娠している可能性のある患者さん**

●イムブルビカ®の治療前に確認すること

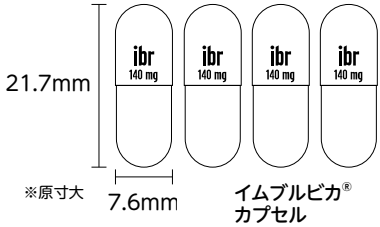
下記に該当する項目がある場合は、イムブルビカ®服用中に注意が必要であったり、場合によっては治療を受けられないことがあります。
あてはまる方はイムブルビカ®服用前に、必ず医師、看護師、薬剤師にご相談ください。

- ☐ 血液を固まらせる働きをおさえるお薬による治療を受けている方
- ☐ 現在、感染症（敗血症、細菌・ウイルス・真菌感染）にかかっている方、肝炎・結核・帯状疱疹にかかったことのある方
- ☐ 骨髄機能が高度に低下し、高度な血球減少（好中球、血小板、ヘモグロビンなどの数が減っている）がみられる方
- ☐ 不整脈のある方、または以前に心房細動や不整脈があった方
- ☐ 重度の腎機能障害（重い腎臓の病気）がある方
- ☐ 軽度の肝機能の検査値異常がある方
- ☐ 手術（抜歯など歯科手術も含む）を受けたばかりの方、または、これから手術を受ける予定のある方
- ☐ P.14のお薬の服用もしくは食べ物を常食している方

イムブルビカ®を飲むときに注意することは？

服用方法

- 4カプセルを1日1回服用します。
- コップ1杯程度の水または
  ぬるま湯と飲んでください。
- 医師、薬剤師に指示された
  服用方法に必ず従ってください。



服用時の注意

- カプセルをあけて中身だけを服用しないでください。
- 医師の指示なしに、自分の判断で服用をやめないでください。

飲み忘れた場合

- 決して2回分を一度に飲まないでください。
- 飲み忘れに気づいたとき、同日内であればできるだけ早く飲んでいただき、次の日からいつも通りの時間に飲んでください。

多く服用した場合

- 誤って多く飲んでしまった場合、出血があらわれる可能性があります。また、多く飲んでしまった場合に、敗血症、ヘモグロビン減少、白血球数減少、疲労、下痢、悪心、便秘、消化不良、胃食道逆流性疾患、喀血、挫傷などの副作用が報告されています。
- 多く飲んでしまった場合は、使用を中止し、ただちに医師に連絡してください。

服用しにくいと感じたら

- カプセルが服用しにくいと感じたら医師、薬剤師に相談しましょう。
- 多めの水や補助ゼリーなどと一緒に服用する方法もあります。

お薬の飲み合わせによっては、副作用の原因となったり、イムブルビカ®の効果が出にくくなったりすることがあります。他のお薬とイムブルビカ®を同時に飲む場合には注意が必要です。必ず医師、看護師、薬剤師に相談してください。また、イムブルビカ®を服用中に他の医療機関で新しく別のお薬を処方される際や新たな健康食品を服用する際などにも、医師、看護師、薬剤師に相談してください。

イムブルビカ®と併用してはいけない食べ物

□グレープフルーツを含む食品	**血中のイムブルビカ®の濃度が上昇し、副作用が強くあらわれることがあります。**
□セイヨウオトギリソウ（St. John's Wort、セント・ジョーンズ・ワート）を含む食品：古くから医療目的でも使われているハーブで、健康食品やサプリメント、ハーブティなどに含まれている場合があります。	**血中のイムブルビカ®の濃度が低下し、効果が弱まることがあります。**

イムブルビカ®との併用に注意する必要があるお薬や食べ物

□魚油またはビタミンEなどのサプリメント		**出血の危険が増加するおそれがあります。**
□血液を固まらせる働きをおさえるお薬	抗凝固剤、抗血小板剤	
□HIV感染症のお薬	コビシスタットを含むお薬、アタザナビル、ダルナビル、ホスアンプレナビル	**血中のイムブルビカ®の濃度が上昇し、副作用が強くあらわれることがあります。**
□HIV感染症のお薬、新型コロナウイルス感染症のお薬	リトナビルを含む配合剤、リトナビルを同時に服用するお薬	
□真菌（カビ）や細菌による感染症のお薬	ボリコナゾール、ポサコナゾール、フルコナゾール、エリスロマイシン、シプロフロキサシン	
□吐き気止め	アプレピタント	
□高血圧や心臓のお薬	ジルチアゼム、ベラパミル、アミオダロン	
□フラノクマリン類を含有する柑橘類：セビリアオレンジ（ダイダイとも呼ばれます。マーマレードやジュースに含まれることがあります）、ぶんたん（ザボン、晩白柚、ボンタン、ポメロとも呼ばれます）		
□結核、非結核性抗酸菌症のお薬	リファンピシン	**血中のイムブルビカ®の濃度が低下し、効果が弱まることがあります。**
□てんかんなどのお薬	カルバマゼピン、フェニトイン	

治療スケジュール例について

初めてMCLの治療を受ける患者さんの場合

初めてMCLの治療を受ける患者さんでは、イムブルビカ®と他のMCLのお薬（ベンダム
以下に治療スケジュール例をお示しします。

イムブルビカ®+BR併用療法（ベンダムスチン+リツキシマブ）の

1～6サイクル（4週間1サイクル）【1～24週】	1週目							2週目			
日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
イムブルビカ®（経口投与）	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
リツキシマブ（点滴静注）	●										
ベンダムスチン（点滴静注）	●	●									

7サイクル（4週間1サイクル）【25～28週】	1週目							2週目			
日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
イムブルビカ®（経口投与）	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
リツキシマブ（点滴静注）											

8～30サイクル（4週間1サイクル）【29～120週】	1週目							2週目			
日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
イムブルビカ®（経口投与）	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
リツキシマブ（点滴静注）*	●										

31サイクル以降（4週間1サイクル）【121週以降】	1週目							2週目			
日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
イムブルビカ®（経口投与）	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
リツキシマブ（点滴静注）											

＊ 2サイクルごとに投与します。また、治療後の患者さんの状態により、投与されないこともあります。

MCLの治療を受けたことのある患者さんの場合

これまでにMCLの治療を受けたことのある患者さんでは、イムブルビカ®を1日1回経口投与

スチン、リツキシマブ）を併用して治療を行います。

治療スケジュール例

			3週目							4週目						
12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

			3週目							4週目						
12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

			3週目							4週目						
12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

			3週目							4週目						
12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

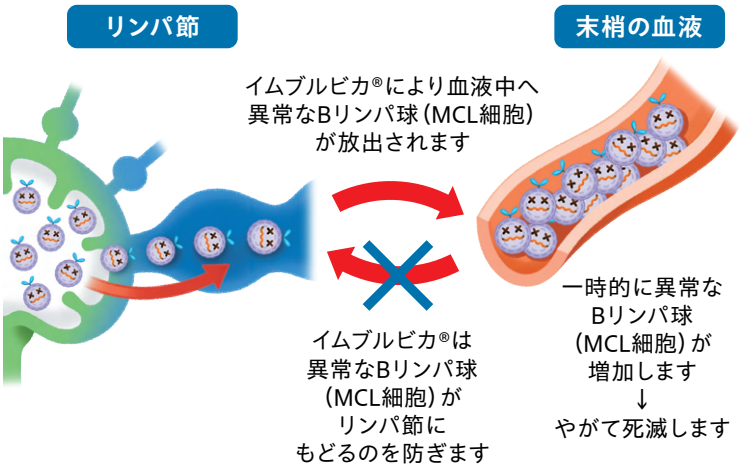
このカレンダーは治療スケジュールの一例です。医師の指示に従い、通院、服薬を行ってください。

する単剤療法を行います。

●服用後、一時的にリンパ球が増えることがあります

イムブルビカ®は、異常なBリンパ球であるマントル細胞リンパ腫（MCL）細胞を増殖できなくしたり、リンパ節や脾臓に集まったり、くっついたりできなくするお薬です。臓器にくっつくことができなくなったMCL細胞は、各臓器から全身の血液に流れ出て行きます。そのため、一時的に血液中の異常なBリンパ球（MCL細胞など）の数が増加する場合があります。
お薬を飲みはじめた直後は、血液検査の白血球数（リンパ球数）が一時的に増えますが、他の臨床症状・検査所見が改善している限り、病気が進行したわけではなく、お薬が体の中で効いているためなので心配しないでください。引き続き、医師と相談しながら服薬を続けていきましょう。

イムブルビカ®による一時的なリンパ球の増加



●お薬を飲み続けることが大切です

イムブルビカ®による治療中は、決められた量のお薬を継続して服用することが大切です。医師、看護師、薬剤師と相談して、ご自身に都合のよい服用時間を決め、1日1回、同じ時間に飲むとよいでしょう。お薬を飲むことを習慣づけて、飲み忘れを防ぐようにしましょう。

服用を続けるためのヒント

- たとえば、朝新聞を読むときなど、1日1回、同じ時間に服用するようにしましょう。
- お薬を服用した後に、カレンダーに記入するなどの習慣をつけましょう。
- 時計のアラームなどをセットして、服用する時間を忘れないようにしましょう。
- 散歩や買い物の前後に服用するなど、毎日の習慣にしていることと関連づけましょう。
- 服用する時間になったら、ご家族や友人に知らせてもらうという方法もあります。

「イムブルビカ®服用中の副作用は？」

イムブルビカ®の服用時には、治療効果の他に、副作用があらわれることがあります。

自覚症状としてあらわれるもの

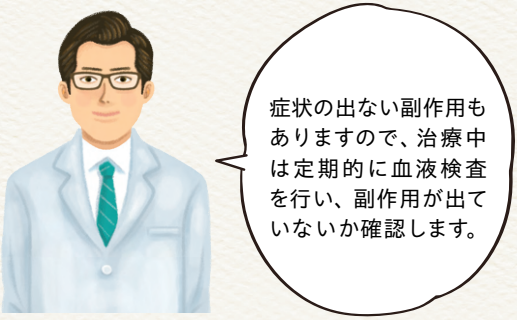
- 出血
- 感染症
- 発熱
- 発疹（皮膚にできるぶつぶつ）
- 口内炎
- 貧血
- 疲労
- 悪心（吐き気）
- 下痢
- 食欲減退
- 筋骨格痛（身体の痛み）
- 筋痙縮（手足のつっぱり）
- 眼障害
- 息切れや咳
- 頭痛

など

副作用は自覚症状としてあらわれるものと、検査によりわかるものがあります。早い段階で気づくために、主な副作用やその症状について知っておきましょう。

自覚症状のあらわれにくいもの

- 肝機能障害
  (B型肝炎などのウイルス感染症や、肝不全といった重篤な肝機能障害)
  定期的に肝炎ウイルスや肝機能の検査を行います。
- 進行性多巣性白質脳症(JCウイルスによる)
  正常な状態だとJCウイルスは何もしませんが、免疫機能が低下していると増殖する可能性があります。
  患者さんによっては意識障害、認知障害、麻痺症状が出ることがあります。
- 白血球症[白血球停滞、Leukostasis](著明な白血球増多による)
  主に肺や脳の細い血管に影響が生じるため、呼吸不全や頭蓋内出血などが起こりやすくなります。患者さんによっては頭痛や、歩行に障害が出たりすることもあります。



「 服用中にあらわれやすい副作用 」

	下痢	発疹	貧血
副作用			
あらわれやすい時期（臨床試験を参考に）	特に服用しはじめ（開始3ヵ月以内）に多くあらわれることがあります。	服用している期間を通じてよくあらわれます。	服用しはじめ（開始ありますが、服用して
主な症状	下痢、軟便、（重い下痢では）脈が速くなる	皮膚にぶつぶつができたり、赤くなったりする（帯状疱疹を含む）、かゆみなど	顔色が悪い、疲れやすい、身体がだるい、頭が重い、動悸がする、息切れがするなど
予防・対策など	下痢が続く場合は脱水症状を防ぐため、十分に水分をとることが大切です。また、整腸剤や下痢止めが処方された場合は医師の指示に従って服用しましょう。	発疹が出た場合は、医師に相談し、皮膚科を受診するなどしましょう。	疲れや息切れを感じたら体を休めるようにしましょう。

症状がひどい場合は、早めに医師にご連絡ください。

悪心（吐き気）	筋骨格痛（体の痛み、手足のつっぱり）	感染症	出血
3ヵ月以内）に比較的多くあらわれることがいる期間を通じて注意が必要です。		服用している期間を通じてあらわれることがありますので、注意が必要です。	
嘔吐に先行して起こるむかつき、悪心（吐き気）	けがをしていないのに関節や筋肉が痛む	突然の高熱、寒気がする、咳、痰が出る、風邪のような症状（鼻水が出る）、体がだるいなど	手足のあざや点状の内出血ができやすい、出血しやすい（歯ぐきの出血・鼻血・血尿・血便）など
症状がひどいときは我慢せず、医師に相談し、吐き気止めなどのお薬を処方してもらいましょう。	身体に気になる痛みがあらわれたら、医師に伝えてください。	服用中は外出時にはマスクをする、外出後は手洗いやうがいをするなど、細菌の侵入を防ぐよう心がけましょう。	出血リスクのある方（P.23参照）はイムブルビカ®服用前に医師に相談し、服用中には出血がないか注意してください。また、生活の中で体をぶつけたり、外傷や打撲をしないように注意しましょう。

「特に注意が必要な副作用（1）」

感染症

体内に入った細菌を殺す重要な働きをする白血球や好中球が減ることで、細菌に対する抵抗力が弱くなり感染症（上気道感染、副鼻腔炎、肺炎、尿路感染、敗血症、結核の再活性化など）にかかることがあります。

主な症状

突然の高熱、寒気がする、咳、痰が出る、風邪のような症状（鼻水が出る）、体がだるいなど

予防・対策など

服用中は外出時にはマスクをする、外出後は手洗いやうがいをするなど、細菌の侵入を防ぐよう心がけましょう。

出血

血液を固める血小板が減少したり、血小板の働きが低下すると、出血が起こりやすくなったり、血が止まりにくくなります。
次にあてはまる方は、出血するリスクが増加する可能性があります。

- 血液を固まらせる働きをおさえるお薬（P.14）との併用
- イムブルビカ®との併用に注意する必要があるお薬や食べ物（P.14）の併用
- 高齢（65歳以上）
- イムブルビカ®投与前のリンパ球数の増加（100×10^9/L以上）、血小板数の減少（100×10^9/L以下）、血液を固まらせる働きの異常（血小板凝集能低下、第Ⅷ凝固因子低値およびフォン・ヴィルブランド因子活性低下）、出血、高脂血症、精神神経疾患、大きな事故やけがの既往

主な症状

手足のあざや点状の内出血ができやすい、出血しやすい（歯ぐきの出血・鼻血・血尿・血便）など

予防・対策など

出血リスクのある方はイムブルビカ®服用前に医師、看護師、薬剤師に相談し、服用中には出血がないか注意してください。また、生活の中で体をぶつけたり、外傷や打撲をしないように注意しましょう。

イムブルビカ®の服用時には下記のような副作用に注意してください。
このような症状がみられた場合は、重大な副作用であることもありますので、放置せず、次の診察を待たずに早めに医師、看護師、薬剤師に相談してください。

眼障害

下記のような眼の症状があらわれることがあります。

主な症状

眼が霞む・乾燥する、涙が増える、
眼の痛み・かゆみ、視力低下など

予防・対策など

このような症状がみられたら、医師、看護師、
薬剤師に相談し、眼科を受診するなどしましょう。

不整脈

心房細動などの不整脈に関連した症状があらわれることがあります。

主な症状

動悸がする、めまいがする、ふらつく、
失神するなど

予防・対策など

このような症状がみられたら、医師、看護師、
薬剤師に相談し、心電図検査を
受けるなどしましょう。

「特に注意が必要な副作用（2）」

腫瘍崩壊症候群

がん細胞が大量に壊されることで体内の尿酸が増えたり、血液が酸性になったり、腎臓からの尿の産生が減少したりすることがあります。
腎不全にかかったことがある方や大きなリンパ節の腫れがある方でリスクが増加する可能性があります。

主な症状

服薬後（72時間以内）の下痢、嘔吐、脱力感、しびれ感、筋肉のけいれん、尿量の減少など

予防・対策など

水分補給により予防できる可能性がありますので、まずは水分を十分にとることが大切です。また、高尿酸血症のお薬で予防することもあります。服用直後に尿の量が減ったと感じたら、医師、看護師、薬剤師に相談しましょう。

過敏症

過敏症というアレルギーのような症状があらわれることがあります。

主な症状

皮膚のかゆみ、蕁麻疹、声がかすれる、くしゃみが出るなど

予防・対策など

このような症状がみられたら医師、看護師、薬剤師に相談しましょう。
また、投与後5～30分以内で急激な皮膚の異常や息苦しさ、意識がもうろうとするなどの症状がみられた場合は、救急車などを利用してすみやかに医療機関を受診してください。

イムブルビカ®の服用時には下記のような副作用に注意してください。
このような症状がみられた場合は、重大な副作用であることもありますので、放置せず、次の診察を待たずに早めに医師、看護師、薬剤師に相談してください。

皮膚粘膜眼症候群（Stevens - Johnson症候群）

風邪のような症状の後に、皮膚や粘膜、眼にアレルギーのような症状が報告されています。

主な症状

38℃以上の発熱、眼・口・喉・泌尿器などの粘膜の炎症や痛み、赤い発疹

予防・対策など

このような症状がみられたら、すぐに医師、看護師、薬剤師に連絡してください。

間質性肺疾患

お薬によって引き起こされる肺炎が報告されています。

主な症状

発熱、呼吸困難（息切れ）、痰がからまない乾いた咳など

予防・対策など

このような症状がみられたら、すぐに医師、看護師、薬剤師に連絡してください。

イムブルビカ®の服用時に起こる副作用は、日常生活を工夫することで防ぐことができる場合があります。副作用を予防するために下記のような点を心がけましょう。

日常生活の注意点

- 脱水に気をつけましょう。
  - 軟便や下痢がみられたら、水分を十分にとりましょう。
- 感染症に気をつけましょう。
  - 手洗い、うがいをしましょう。
  - 入浴、シャワーで清潔を保ちましょう。
- けがに気をつけましょう。
  - 転倒や打撲、切り傷に注意しましょう。
- アルコールの摂取は控えましょう。

など

MEMO

治療中の体調や気になることを記録しましょう

治療日記の記入のしかた

● 毎日の体の状態を記録しましょう

下記の記入例に従って、治療日記に体の状態を記入するようにしましょう。診察を受ける際には、治療日記を持参して、医師にも確認してもらってください。気になることがあれば、医師、看護師、薬剤師に相談するようにしましょう。また、普段みられない症状があらわれたり、体調がおかしいと感じたら、次の診察を待たずに、すぐに医師、看護師、薬剤師に連絡してください。

記入例

日付（曜日）		6/8（月）	6/9（火）	6/10（水）
イムブルビカ®服用時間		7：50	7：50	7：50
体重		58.1 kg	58.3 kg	58.4 kg
消化器症状	食欲がない			
	下痢	○	○	
	吐き気・おう吐		○	○
	口内炎			
感染症	発熱（37.0℃以上）			○
	だるさ			○
	咳			
	咳/喉の痛み			○
出血症状	鼻血 歯ぐきの出血 あおあざができる			
その他	発疹・かゆみ			
	からだの痛み			
	動悸			
				息苦しいことがあった。

その他気になることをお書きください

6/9 いつもより下痢がひどい。5回は下痢でトイレに行った。

6/10 鼻水が出るようになってきた。

日付を記入しましょう。

お薬を飲んだ時間を記入しましょう。

体重を量ったときには記入しましょう。

あてはまる症状があれば「○」印をつけましょう。

発熱があった日には「○」印をつけましょう。

体調の変化や、気になることがあれば、自由に書き入れましょう。

● 体の「疲れ」についても記録しましょう（FACIT-Fatigue Scale）

また、下記の記入例にあるように、質問票に従って、自分の体の疲れを記入するようにしましょう。イムブルビカ®を飲み始める日とその後は4週間ごとに質問票に記入することで、MCLによる「倦怠感（体のだるさ）」の変化を医師と確認することができます。

記入例

日付（曜日）	6/8（月）	1 週目

日付と服用してから何週目か記入しましょう。

下記はあなたと同じ症状の方々が重要だと述べた項目です。**過去7日間を対象に、自分の回答として最も適した番号を各項目につき一つ選び、○で囲んでください。**

	全くあてはまらない	わずかにあてはまる	多少あてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる
1. 倦怠感（けんたい）がある	0	1	②	3	4
2. 体全体が弱っていると感じる	0	1	②	3	4
3. 何事にも関心がわかない（疲れ切って）	0	1	②	3	4
4. [illegible]	0	1	②	3	4
5. 疲れのせいで何事も始めるのが困難である	0	1	2	③	4
6. 疲れのせいで何事も完了させるのが困難である	0	1	②	3	4
7. 活力がある	0	①	2	3	4
8. 普段していることはできる	0	①	2	3	4
9. 日中も横になって休まなければならない	0	1	②	3	4
10. 疲れがひどく食事もできない	0	①	2	3	4
11. 普段していることにも助けがいる	⓪	1	2	3	4
12. 疲れのため、したいことができずイライラする	0	1	2	③	4
13. 疲れのため、社会的活動ができないことがある	0	1	②	3	4

体の状態に近いところに「○」印をつけましょう。

質問1～6、9～13の合計（①）	質問7、8の合計（②）	44−①=③	総計（②+③）
21	2	23	25

記入例です。

The FACIT and all related works are owned and copyrighted by, and the intellectual property of David Cella, Ph.D.
Permission for use of the FACIT-FATIGUE questionnaire is obtained by contacting Dr. Cella at information@facit.org.

過去7日間の体の疲れについて記入してください（FACIT-Fatigue Scale）

本スケールは患者さんの倦怠感の度合いをみるためのものです。

日付（曜日）	/（　　）	週目

イムブルビカ®を飲み始める日に測定

下記はあなたと同じ症状の方々が重要だと述べた項目です。**過去7日間を対象に、自分の回答として最も適した番号を各項目につき一つ選び、○で囲んでください。**

	全くあてはまらない	わずかにあてはまる	多少あてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる
1. 倦怠感（けんたい）がある	0	1	2	3	4
2. 体全体が弱っていると感じる	0	1	2	3	4
3. 何事にも関心がわかない（疲れ切って）	0	1	2	3	4
4. 疲れを感じる	0	1	2	3	4
5. 疲れのせいで何事も始めるのが困難である	0	1	2	3	4
6. 疲れのせいで何事も完了させるのが困難である	0	1	2	3	4
7. 活力がある	0	1	2	3	4
8. 普段していることはできる	0	1	2	3	4
9. 日中も横になって休まなければならない	0	1	2	3	4
10. 疲れがひどく食事もできない	0	1	2	3	4
11. 普段していることにも助けがいる	0	1	2	3	4
12. 疲れのため、したいことができずイライラする	0	1	2	3	4
13. 疲れのため、社会的活動ができないことがある	0	1	2	3	4

質問1～6、9～13の合計（①）	質問7、8の合計（②）	44−①=③	総計（②+③）

The FACIT and all related works are owned and copyrighted by, and the intellectual property of David Cella, Ph.D. Permission for use of the FACIT-FATIGUE questionnaire is obtained by contacting Dr. Cella at information@facit.org.

治療日記

日付（曜日）		/ ( )	/ ( )	/ ( )	/ ( )	/ ( )	/ ( )	/ ( )
イムブルビカ®服用時間		:	:	:	:	:	:	:
体重		kg	kg	kg	kg	kg	kg	kg
消化器症状	食欲がない							
	下痢							
	吐き気・おう吐							
	口内炎							
感染症	発熱（37.0℃以上）							
	だるさ							
	咳							
	咳/喉の痛み							
出血症状	鼻血 歯ぐきの出血 あおあざができる							
その他	発疹・かゆみ							
	からだの痛み							
	動悸							

その他気になることをお書きください

医師記入欄（検査日：　　/　　）

白血球数	/μL
好中球数	/μL
ヘモグロビン値	g/dL
血小板数	万/μL

治療日記

日付 (曜日)		/ (　　)	/ (　　)	/ (　　)	/ (　　)	/ (　　)	/ (　　)	/ (　　)
イムブルビカ® 服用時間		:	:	:	:	:	:	:
体重		kg	kg	kg	kg	kg	kg	kg
消化器症状	食欲がない							
	下痢							
	吐き気・おう吐							
	口内炎							
感染症	発熱 (37.0℃以上)							
	だるさ							
	咳							
	咳/喉の痛み							
出血症状	鼻血 歯ぐきの出血 あおあざが できる							
その他	発疹・かゆみ							
	からだの痛み							
	動悸							

その他気になることをお書きください

治療日記

日付 （曜日）		/ （　　）	/ （　　）	/ （　　）	/ （　　）	/ （　　）	/ （　　）	/ （　　）
イムブルビカ® 服用時間		：	：	：	：	：	：	：
体重		kg	kg	kg	kg	kg	kg	kg
消化器症状	食欲がない							
	下痢							
	吐き気・おう吐							
	口内炎							
感染症	発熱 （37.0℃以上）							
	だるさ							
	咳							
	咳/喉の痛み							
出血症状	鼻血 歯ぐきの出血 あおあざが できる							
その他	発疹・かゆみ							
	からだの痛み							
	動悸							

その他気になることをお書きください

医師記入欄（検査日：　　/　　）

白血球数	/μL
好中球数	/μL
ヘモグロビン値	g/dL
血小板数	万/μL

治療日記

日付 (曜日)		/ ( )	/ ( )	/ ( )	/ ( )	/ ( )	/ ( )	/ ( )
イムブルビカ® 服用時間		:	:	:	:	:	:	:
体重		kg	kg	kg	kg	kg	kg	kg
消化器症状	食欲がない							
	下痢							
	吐き気・おう吐							
	口内炎							
感染症	発熱 (37.0℃以上)							
	だるさ							
	咳							
	咳/喉の痛み							
出血症状	鼻血 歯ぐきの出血 あおあざが できる							
その他	発疹・かゆみ							
	からだの痛み							
	動悸							

その他気になることをお書きください

過去7日間の体の疲れについて記入してください（FACIT-Fatigue Scale）

本スケールは患者さんの倦怠感の度合いをみるためのものです。

日付（曜日）	/（　　）	週目

イムブルビカ®を飲み始めてから4週後に測定

下記はあなたと同じ症状の方々が重要だと述べた項目です。**過去7日間を対象に、自分の回答として最も適した番号を各項目につき一つ選び、○で囲んでください。**

	全くあてはまらない	わずかにあてはまる	多少あてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる
1. 倦怠感（けんたい）がある	0	1	2	3	4
2. 体全体が弱っていると感じる	0	1	2	3	4
3. 何事にも関心がわかない（疲れ切って）	0	1	2	3	4
4. 疲れを感じる	0	1	2	3	4
5. 疲れのせいで何事も始めるのが困難である	0	1	2	3	4
6. 疲れのせいで何事も完了させるのが困難である	0	1	2	3	4
7. 活力がある	0	1	2	3	4
8. 普段していることはできる	0	1	2	3	4
9. 日中も横になって休まなければならない	0	1	2	3	4
10. 疲れがひどく食事もできない	0	1	2	3	4
11. 普段していることにも助けがいる	0	1	2	3	4
12. 疲れのため、したいことができずイライラする	0	1	2	3	4
13. 疲れのため、社会的活動ができないことがある	0	1	2	3	4

質問1～6、9～13の合計（①）	質問7、8の合計（②）	44−①=③	総計（②+③）

The FACIT and all related works are owned and copyrighted by, and the intellectual property of David Cella, Ph.D. Permission for use of the FACIT-FATIGUE questionnaire is obtained by contacting Dr. Cella at information@facit.org.

治療日記

日付 (曜日)		/ (　　)	/ (　　)	/ (　　)	/ (　　)	/ (　　)	/ (　　)	/ (　　)
イムブルビカ® 服用時間		:	:	:	:	:	:	:
体重		kg	kg	kg	kg	kg	kg	kg
消化器症状	食欲がない							
	下痢							
	吐き気・おう吐							
	口内炎							
感染症	発熱 (37.0℃以上)							
	だるさ							
	咳							
	咳/喉の痛み							
出血症状	鼻血 歯ぐきの出血 あおあざが できる							
その他	発疹・かゆみ							
	からだの痛み							
	動悸							

その他気になることをお書きください

治療日記

日付（曜日）		/ ( )	/ ( )	/ ( )	/ ( )	/ ( )	/ ( )	/ ( )
イムブルビカ®服用時間		:	:	:	:	:	:	:
体重		kg	kg	kg	kg	kg	kg	kg
消化器症状	食欲がない							
	下痢							
	吐き気・おう吐							
	口内炎							
感染症	発熱（37.0℃以上）							
	だるさ							
	咳							
	咳/喉の痛み							
出血症状	鼻血 歯ぐきの出血 あおあざができる							
その他	発疹・かゆみ							
	からだの痛み							
	動悸							

その他気になることをお書きください

医師記入欄（検査日：　　/　　）

白血球数	/μL
好中球数	/μL
ヘモグロビン値	g/dL
血小板数	万/μL

治療日記

日付 (曜日)		/ (　　)	/ (　　)	/ (　　)	/ (　　)	/ (　　)	/ (　　)	/ (　　)
イムブルビカ® 服用時間		:	:	:	:	:	:	:
体重		kg	kg	kg	kg	kg	kg	kg
消化器症状	食欲がない							
	下痢							
	吐き気・おう吐							
	口内炎							
感染症	発熱 (37.0℃以上)							
	だるさ							
	咳							
	咳/喉の痛み							
出血症状	鼻血 歯ぐきの出血 あおあざが できる							
その他	発疹・かゆみ							
	からだの痛み							
	動悸							

その他気になることをお書きください

治療日記

日付 （曜日）		/ （　　）	/ （　　）	/ （　　）	/ （　　）	/ （　　）	/ （　　）	/ （　　）
イムブルビカ® 服用時間		：	：	：	：	：	：	：
体重		kg	kg	kg	kg	kg	kg	kg
消化器症状	食欲がない							
	下痢							
	吐き気・おう吐							
	口内炎							
感染症	発熱 （37.0℃以上）							
	だるさ							
	咳							
	咳/喉の痛み							
出血症状	鼻血 歯ぐきの出血 あおあざが できる							
その他	発疹・かゆみ							
	からだの痛み							
	動悸							

その他気になることをお書きください

医師記入欄（検査日：　　/　　）

白血球数	/μL
好中球数	/μL
ヘモグロビン値	g/dL
血小板数	万/μL

過去7日間の体の疲れについて記入してください（FACIT-Fatigue Scale）

本スケールは患者さんの倦怠感の度合いをみるためのものです。

日付（曜日）	/（　　）	週目

イムブルビカ®を飲み始めてから8週後に測定

下記はあなたと同じ症状の方々が重要だと述べた項目です。**過去7日間を対象に、自分の回答として最も適した番号を各項目につき一つ選び、○で囲んでください。**

	全くあてはまらない	わずかにあてはまる	多少あてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる
1. 倦怠感（けんたい）がある	0	1	2	3	4
2. 体全体が弱っていると感じる	0	1	2	3	4
3. 何事にも関心がわかない（疲れ切って）	0	1	2	3	4
4. 疲れを感じる	0	1	2	3	4
5. 疲れのせいで何事も始めるのが困難である	0	1	2	3	4
6. 疲れのせいで何事も完了させるのが困難である	0	1	2	3	4
7. 活力がある	0	1	2	3	4
8. 普段していることはできる	0	1	2	3	4
9. 日中も横になって休まなければならない	0	1	2	3	4
10. 疲れがひどく食事もできない	0	1	2	3	4
11. 普段していることにも助けがいる	0	1	2	3	4
12. 疲れのため、したいことができずイライラする	0	1	2	3	4
13. 疲れのため、社会的活動ができないことがある	0	1	2	3	4

質問1～6、9～13の合計（①）	質問7、8の合計（②）	44−①=③	総計（②+③）

The FACIT and all related works are owned and copyrighted by, and the intellectual property of David Cella, Ph.D. Permission for use of the FACIT-FATIGUE questionnaire is obtained by contacting Dr. Cella at information@facit.org.

治療日記

日付（曜日）		/ ( )	/ ( )	/ ( )	/ ( )	/ ( )	/ ( )	/ ( )
イムブルビカ®服用時間		:	:	:	:	:	:	:
体重		kg	kg	kg	kg	kg	kg	kg
消化器症状	食欲がない							
	下痢							
	吐き気・おう吐							
	口内炎							
感染症	発熱（37.0℃以上）							
	だるさ							
	咳							
	咳/喉の痛み							
出血症状	鼻血 歯ぐきの出血 あおあざができる							
その他	発疹・かゆみ							
	からだの痛み							
	動悸							

その他気になることをお書きください

医師記入欄（検査日：　　/　　）

白血球数	/μL
好中球数	/μL
ヘモグロビン値	g/dL
血小板数	万/μL

治療日記

日付 (曜日)		/ (　　)	/ (　　)	/ (　　)	/ (　　)	/ (　　)	/ (　　)	/ (　　)
イムブルビカ® 服用時間		:	:	:	:	:	:	:
体重		kg	kg	kg	kg	kg	kg	kg
消化器症状	食欲がない							
	下痢							
	吐き気・おう吐							
	口内炎							
感染症	発熱 (37.0℃以上)							
	だるさ							
	咳							
	咳/喉の痛み							
出血症状	鼻血 歯ぐきの出血 あおあざが できる							
その他	発疹・かゆみ							
	からだの痛み							
	動悸							

その他気になることをお書きください

治療日記

日付 （曜日）		/ （　　）	/ （　　）	/ （　　）	/ （　　）	/ （　　）	/ （　　）	/ （　　）
イムブルビカ® 服用時間		：	：	：	：	：	：	：
体重		kg	kg	kg	kg	kg	kg	kg
消化器症状	食欲がない							
	下痢							
	吐き気・おう吐							
	口内炎							
感染症	発熱 （37.0℃以上）							
	だるさ							
	咳							
	咳/喉の痛み							
出血症状	鼻血 歯ぐきの出血 あおあざが できる							
その他	発疹・かゆみ							
	からだの痛み							
	動悸							

その他気になることをお書きください

医師記入欄（検査日：　　/　　）

白血球数	/μL
好中球数	/μL
ヘモグロビン値	g/dL
血小板数	万/μL

治療日記

日付 (曜日)		/ (　　)	/ (　　)	/ (　　)	/ (　　)	/ (　　)	/ (　　)	/ (　　)
イムブルビカ® 服用時間		:	:	:	:	:	:	:
体重		kg	kg	kg	kg	kg	kg	kg
消化器症状	食欲がない							
	下痢							
	吐き気・おう吐							
	口内炎							
感染症	発熱 (37.0℃以上)							
	だるさ							
	咳							
	咳/喉の痛み							
出血症状	鼻血 歯ぐきの出血 あおあざが できる							
その他	発疹・かゆみ							
	からだの痛み							
	動悸							

その他気になることをお書きください

MEMO

氏　　名

住　　所

連　絡　先

医療機関名

担当医師名

連　絡　先

pharmacyclics®
An AbbVie Company

イムブルビカ®はPharmacyclics社との共同開発です。
ヤンセンファーマ株式会社はイムブルビカ®の製造販売元で、本資材の編集責任者です。

janssen
PHARMACEUTICAL COMPANIES OF
Johnson & Johnson

IBR-0032
IBR.Pt028.7
2024年2月作成

©Pharmacyclics 2016-2024
©Janssen Pharmaceutical K.K. 2016-2024